

H29年度 保護林モニタリング調査結果一覧表

【資料3-2】

保護林名	区分	保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	調査結果	シカ被害レベル	現状評価案	保護・管理の方針(案)	モニタリング間隔案(年)	過去の保護対策の実施状況(参考)
九州中央山地	森林生物遺伝資源保存林	落葉広葉樹に係る生物遺伝資源の保存	・大径木の枯損が目立つ地点が全体の1/4を占める ・下層植生は全域でズズタケ・後継樹の喪失などシカ被害が大きく、森林構成にも影響がでている	0、2~4	・林冠をブナ、サワグルミ、ツガが構成するが、大半のプロットで林床のズズタケが欠落または矮小化している。また、林冠構成種のブナの大径木及び後継個体となる幼木の欠落が目立つ。 林相は極相林となっており保護林の要件を満たしていると評価されるが、このままシカによる被害が継続すれば現状の維持に影響がでることが懸念される ・哺乳類、鳥類、昆虫類の希少種が多数確認されるなど、当保護林が希少種を含めた動物相の重要な生息場所となっているが、シカの食害による森林の内部構造の変化により、特に下層植生に依存している動物相の減少が懸念される。	・植生保護柵の拡充を検討 ・捕獲によるシカの個体数調整を継続する ・植生保護柵が設置してある箇所の定期的な保守点検に努める。	5	・有害鳥獣捕獲 ・植生保護柵の設置 ・ブナハバチ対策の実施
小石原	林木遺伝資源保存林	行者スギの保存	・保存対象種は良好。 ・立木及び下層植生にシカ被害あり ・人為的影響としてロープを越えての撮影により樹種損傷や下層植生の踏圧の恐れが有る	2~3	・保存対象樹種の本数及び材積は概ね増加しているが、後継個体の生育は確認されていない。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整を継続する	5	・有害鳥獣捕獲 ・植生保護柵の設置
行者スギ	植物群落保護林	行者スギ老齢林の保存	・保存対象種の生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり	3	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は概ね増加し、後継個体の生育は確認されなかった。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整を継続する	5	・有害鳥獣捕獲
吉無田スギ	植物群落保護林	スギ老齢林の保護	・保存対象種の生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり	2	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は概ね変化なく、後継個体の生育は確認されなかった。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整等の対策を検討する	5	—
雁俣山	植物群落保護林	モミ、ツガ、その他広葉樹林の保護	・保存対象種の生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり	1~3	・保存対象樹種の本数及び材積に概ね増加が見られ、後継個体の生育も確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整等の対策を検討する	5	—
内大臣	植物群落保護林	暖帯上位植生の代表的林相の保存	・林相は針広混交林となっており、モミやケヤキの大径木が確認される他、多様な針葉樹及び広葉樹が確認されることから、暖帯上位性の代表的林相は保存されている ・立木及び下層植生へのシカ被害が見られる。	3	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整等の対策を検討する	5	—
内大臣	特定動物生息地保護林	ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地の保護	・ゴイシツバメシジミ確認 ・立木の生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり ・ゴイシツバメシジミの食草であるシシラン確認 ・シシランが着生する大径木の枯損や倒伏なし	3	・ゴイシツバメシジミの食草であるシシランは着生種のため、シカによる食害は確認されず、生育状態は良好であった。 ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地について、現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。 しかし、シカの個体数増加に起因する林床植生が衰退や森林の内部構造の変化が、ゴイシツバメシジミを始めとした動物相へ与える影響が懸念される。	・捕獲によるシカの個体数調整等の対策を検討する	5	・植生保護柵の設置 ・シシランの移植 ・ゴイシツバメシジミの保護管理対策調査 ・巡視事業
二上	植物群落保護林	ケヤキ天然生林の保存	・保存対象種の生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり	3	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は概ね変化なく、後継個体の生育は確認されなかった。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整を継続する	5	・有害鳥獣捕獲

保護林名	区分	保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	調査結果	シカ被害レベル	現状評価案	保護・管理の方針(案)	モニタリング間隔案(年)	過去の保護対策の実施状況(参考)
鬼の目山	林木遺伝資源保存林	スギ、アカマツ、ヒメコマツ、アカシデの保存	・保存対象種の生育は概ね良好 ・立木及び下層植生はシカ被害あり ・全域でスズタケの開花による枯損及び矮小化	0、3	・保存対象樹種の本数及び材積は概ね増加しており、後継個体の生育が確認されている。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整を継続する	5	・有害鳥獣捕獲
三ツ岩	林木遺伝資源保存林	オビスギの保存	・保存対象種の生育は良好 ・シカ被害はなし ・下層植生は繁茂	0	・保存対象樹種の本数は概ね増加しているが材積はやや減少しており、後継個体の生育は確認されていない。 現状は概ね維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・周辺地域のシカ個体群の動向を把握する	10	—
大矢取	林木遺伝資源保存林	クスノキ、イチイガシの保存	・保存対象種の生育は良好 ・シカ被害はなし ・下層植生は繁茂	0	・保存対象樹種の本数及び材積に概ね変化ないが、後継個体の生育は確認されていない。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・周辺地域のシカ個体群の動向を把握する	10	—
滝山	植物群落保護林	滝山神社の風致保存	・保存対象種の生育は良好 ・シカ被害はなし ・下層植生は豊かに繁茂	0	・保存対象樹種の本数及び材積に増加が見られ、後継個体の生育も確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・周辺地域のシカ個体群の動向を把握する	10	—
冷水	林木遺伝資源保存林	イチイガシ、アカガシ、シラカシ、イスノキ、タブノキ、ツブラジイ等の保存	・保存対象種のイチイガシ、イスノキ、タブノキの生育は良好 ・立木及び下層植生にシカ被害あり ・下層植生はシカの忌避植物増加	3	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整等の対策を検討する	5	—
冷水	植物群落保護林	サツマシダ等の保存	・立木の生育は良好だが、一部の高木に枯損あり。 ・サツマシダの生育は良好で、本種へのシカ被害はなし ・立木及び下層植生にシカ被害あり	3	・確認されたサツマシダへのシカによる食害は確認されず(現時点ではシカは食べないとされる)、生育状態は良好であった。また、その他の希少種としてオトコシダやラン科植物が確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。 ・コマチイワヒドデは確認されていないことから、注意が必要である。また、サツマシダへのシカの食害など直接的な害が生じていないが、林床の乾燥化による本種への影響が懸念される。	・サツマシダの保護のため小規模な植生保護柵の設置	5	—
紫尾山	林木遺伝資源保存林	ブナ、アカガシ、アカシデ、ウラジロガシ、モミ類の保存	・保存対象種の生育はアカシデを除き良好 ・下層植生にシカ被害あり	3	・確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。	・捕獲によるシカの個体数調整を継続する	5	・有害鳥獣捕獲 ・植生保護柵の設置 ・ブナ植生調査を実施
樋之谷	植物群落保護林	ヒノタニシダ等の保存	・立木の生育は良好だが、一部の高木に枯損あり。 ・ヒノタニシダの生育は良好で、本種へのシカ被害はなし ・立木及び下層植生にシカ被害あり	3	・確認されたヒノタニシダへのシカによる食害は確認されず、生育状態は良好であった。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。 しかし、ヒノタニシダはプロット43302において個体数が少ないことから保全が必要である。	・ヒノタニシダの保護ため小規模な植生保護柵の設置	5	—